

事業実施結果報告書

令和7年度 ゆうごうセミナー（紫波町立日詰小学校6年）日詰商店街で学ぼう

1 目的

- ・地域で活躍するいろいろな分野の指導者と交流し、様々な活動について体験的に学ぶことで、地域の良さや地域との繋がりを感じることで、地域愛を育む。
- ・日詰商店街での体験活動を通して商店街で働く人々の仕事にかける思いや、未来への展望について理解を深める

2 対象

紫波町立日詰小学校 6学年 59名

3 内容

- **令和7年 5月20日（金） 日詰小学校学校第1回学校運営協議会
ゆうごうセミナー（6年）の進め方に係る検討を含む**

【日詰小学校学校運営協議会委員・三好純矢県立大学講師・ゼミ学生3名・佐々木CSコーディネーター 等】



- ・日詰小学校第1回学校運営協議会において、令和7年度ゆうごうセミナー（6年総合的な学習）の内容や、大学生の関わりについて協議し、方向性と内容を検討するとともに、今年度の進め方について三好アドバイザーの助言により今年度の進め方や日程等について確認した

- **令和7年9月2日（火）県立大学生と生徒との顔合わせ及び訪問先検討**

【三好純矢県立大学講師・ゼミ学生9名・6学年担任・児童 等】



・紫波町情報交流館で、三好アドバイザーの支援の元、三好ゼミ学生9名と6年生児童との顔合わせを行い、今後学習を進めて行く際の関係性を高めることができた。また、顔合わせ後に日詰商店街を訪問し、訪問先について検討する機会を設け、9月30日(火)にゼミ学生が訪問する店舗や時間について決定した。

○ 令和7年9月30日(火) 商店街挨拶回り

【三好純矢県立大学講師・ゼミ学生10名・日詰商店街店主 等】

・訪問する店舗を巡り、10月18日に予定されている児童へのプレゼンテーション作成に係る聞き取りや写真撮影を行った。また、三好アドバイザーや商店街の方からの助言で、ゼミ学生が担当する店舗を決定し、プレゼン資料作成の役割分担も行った。

6年 花の虹 商店街挨拶回り	
1 日時 9月30日(火) 15:30~17:00	
2 集合場所 藤屋食堂	
3 挨拶回り及び県大生によるインタビュー	
Aコース 副校長・浦田・県大生	Bコース 鷹齋さん・米澤・県大生
天狗寿司	藤屋食堂
岩手日報	原スポーツ
ミルクホールマイカ	ヨコサワキャンパス
タゴマル	鈴徳商店
平井邸は後日改めて実施	
畠山写真館は、メールで連絡	

○ 10月8日(水) 児童に対する訪問先に係るプレゼンテーション・訪問先決め・訪問計画づくり

【学校長・三好純矢県立大学講師・ゼミ学生10名・学級担任・児童・CSコーディネーター】

・県立大学生が児童に対して、事前に訪問した10の訪問先をプレゼンテーションで紹介し、その後、児童の希望を重視し、10の訪問先を決定した。

・訪問先決定後、11のグループに分かれ、担当大学生の支援のもと役割分担や当日の質問事項の作成などを行い、最後全体で共有した



訪問先一覧及び児童人数

ヨコサワキャンパス(6)	野村 蒼甫 坪谷 奏笑	藤原 煌太 中嶋 彩友	横沢 晴生 野田 瑞季	
ミルクホールマイカ(6)	足立 玄 小原 栞奈	及川 瑛心 塩井 涼花	坂本 晴琉 佐々木 凜和	
畠山写真館(7)	熊谷 貫太 小野 怜南	齊藤 和樹 千葉 歩叶	千葉 柁士朗 山下 紬	高橋 小春
平井邸(7)	鷹觜 晴輝 小林 桂子	中村 佑正 蘇武 柚葉	村井 賢正 中里 結亜	吉原 正親
原スポーツ(6)	北田 朔太郎 釜谷 華來	齊藤 湧志 菊池 果林	深澤 侑 佐藤 純麗	
鈴徳商店(6)	今川 奏登 松本 藍里	吉田 琉人 森川 優芽心	立花 龍己 掃部 琴音	
藤屋食堂(7)	及川 嶺 大崎 胡々尻	高橋 陽奏 鈴木 小夏	小笠原 成悟 藤原 希紗	鈴木 統真
岩手日報(6)	泉田 悠羽 熊谷 灯里	八重嶋 ひらく 藤根 華	山口 颯太 阿部 美月	
天狗寿司(6)	佐々木 慶伍 大沼 心湖	松田 權生 菊池 帆奈美	水堀 瑛斗 吉田 漣	
タゴマル(6)	梅澤 怜士 戸塚 ちはや	葛 遼斗 佐々木 叶華	樋下 裕輔 山屋 杏華	

○10月15日（水）ゆうごうセミナー

【三好純矢県立大学講師・ゼミ学生10名・学級担任・児童・CSコーディネーター】

- ・下記計画に基づき、訪問先10グループに分かれ店舗を訪問した。当日は、訪問先での体験活動と、事前学習で進めた質問などを行うことで、充実した訪問活動となった。
- ・ゼミ学生は、児童の移動時や訪問時の安全に気を配るとともに、児童の体験活動や質問などをサポートできたため、児童の自主的な学習活動が保障された。また、ゼミ学生がグループサポートを行うことで、教職員は全体指導に専念することができたことで、教職員の負担軽減につながった。

第6学年「総合的な学習の時間」授業計画

日時：令和7年10月15日（水）

場所：日詰商店街

1 ねらい

日詰商店街での体験活動を通して、商店街で働く人々の仕事にかける思いや、未来への展望について理解を深める。

2 展開（160分間）

時間の目安	主な学習活動	留意事項
9:30	1 準備	・タブレット、メモ帳等の筆記用具、水筒、ハンカチ、ティッシュ、天候によって雨具、帽子等の準備をする。
9:35	2 グループごとに集合（校庭） ・挨拶 ・顔合わせ（みよしゼミと）	・みよしゼミの皆さんに挨拶をする。 ・グループごとに、担当するみよしゼミの方を確認する。担任等は、グループについて行動する。
9:45	3 学校出発	・グループごとにまとまって、徒歩で日詰商店街の体験先まで移動する。
10:05	4 日詰商店街体験① （60分間の体験活動） ①ヨコサワキャンパス ②ミルクホールマイカ ③畠山写真館 ④平井邸 ⑤原スポーツ ⑥鈴徳商店 ⑦藤屋 ⑧岩手日報 ⑨天狗寿司 ⑩タゴマル	・グループ毎に活動を行う。 ・県大生は店主と時間の確認を行う。 ・体験やインタビューを通して、店主の思いを理解できるようファシリテートする。 ・トイレは、体験先で使わせてもらうか、せせらぎの公衆トイレを使う。 ・ <u>飲食を伴う場合が考えられるので、事前にアレルギーの児童と、その対応について確認しておく。</u> ・11:05 体験を終えたグループから、グループごとにまとまって徒歩で学校に戻る。戻ったグループは、グループ毎にまとめを行う。 ・振り返りシート等に記入する。
11:05	5 日詰商店街出発	
11:25	6 学校着（視聴覚室） タブレット	
11:35	7 振り返りの会 感想発表	・グループごとに、視聴覚室に並ぶ。トイレや水分補給等を行う。
11:45	8 講評 鷹觜氏	・班の代表が振り返りを発表する。
11:55	9 お礼のあいさつ	・鷹觜氏、みよしゼミの皆さんにお礼の挨拶をする。
12:00	教室に戻って活動終了	

【日詰商店街訪問写真】



○11月5日(水) 発表資料作成支援

【三好純矢県立大学講師・ゼミ学生9名・児童・学校公開参加教職員・CSコーディネーター等】
 ・日詰小学校学校公開6学年「国語科」学習活動支援に、ゼミ学生がパンフレットに掲載する「すいせん文章」推敲に係る支援を行った

第6学年 「国語科」学習指導案

日時：令和7年11月5日(水)
 指導者：米澤 功 司 浦田 淳美
 児童数：64名

1 単元名「相手や目的を明確にして、すいせんする文章を書こう」

2 単元の目標

- (1) 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くことができる。[知識及び技能] (1)ア
- (2) 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。[知識及び技能] (1)カ
- (3) 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。[思考・判断力、表現力等] B (1)エ
- (4) 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。[思考・判断力、表現力等] B (1)オ
- (5) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。 ② 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。	① 「書くこと」において、体験学習やインタビューの内容を用いたり、写真や資料などを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	① 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって推薦したいものをプレゼンテーション資料にまとめようとしている。

4 単元計画

時	主な学習活動 ◎研究の視点・留意点	評価		
		知	思	態
1	1 教科書の「問いをもと」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ◎単元構想を共有し、単元の学習を通してどのような力を身に付けるのかを明確にする。 ・総合的な学習の時間に日詰商店街で行った見学やインタビュー、体験学習をもとに、その魅力を紫波町外に住んでいる人たちに伝えることを確認し、相手意識や目的意識を明確にする。	①		
2	2 グループでこれまでに集めた情報を整理し、プレゼンテーション資料の構成とその分担を考える。 ◎学習の課題を明確にもつとともに、収集した情報を多面的に見て、吟味する。 ・教科書の「パンフレットの構成を考えるときは」を参考にしながら、「読んだ人が、そのお店に行きたくなる」という観点に立ち戻り、プレゼンテーション資料の構成や載せる資料を考える。		②	
3	3 担当するページの内容や、推薦する文章の構成を考える。 ◎学習計画をもとに、学習をうまく実行できるよう大事なことを共有する。 ・教科書の「すいせんする文章の構成」「すいせんする文章を書くときは」をもとにして自分が書く文章のイメージをもつとともに、「すいせんする文章の例」を読み、書き表し方を工夫するとき大事なことを確かめる。			①
4	4 推薦する文章を書く。 ◎課題や大事なことに沿って、学習が課題や目標からずれていないか確認しながら進める。 ・「すいせんする文章の構成の例」や、「すいせんする文章を書くときは」に立ち戻りながら、担当するページの文章を考える。			①
5	5 推薦する文章を推敲する。→ 本時 ◎仲間に相談したり、自らに問いかけたりしながら学習内容の理解を深める。 ・「すいせんする文章を書くときは」や「書き表し方を工夫するときは」に立ち戻り、グループで文章を読み合ったりして推敲するとともに、できあがった文章をグループで共有する。		①	
6	6 プレゼンテーション資料を読み合って感想を伝え合うとともに、単元の学習を振り返る。 ◎取り組んだ成果と課題を考えて自己評価するとともに、今後の学習に活かすことを明確にする。 ・国語の単元学習の振り返りとどまらず、総合的な学習の時間の今後の学習計画にも触れ、見通しをもつ。			

5 本時の指導

- (1) 本時の目標
相手と目的を意識し、推薦するもののよさが伝わるように、書き表し方を工夫することができる。
- (2) 評価規準

おおむね満足	努力を要する児童への支援
見出しの工夫、伝えたいことに合う写真、読み手を引き付ける言葉などの書き表し方を工夫して、推薦する文章を書いている。	推敲する際の観点一つ一つを順に確認させたり、教科書192ページにある「すいせんする文章の例」の表現を参考にしよう助言したりする。

○1月26日（水）日詰商店街の魅力を伝えよう 盛岡駅でパンフレット配布活動

【三好純矢県立大学講師・ゼミ学生10名・児童・学級担任等】

・商店街学習で学んだ成果をパンフレット「日詰商店街の魅力」にまとめ、盛岡駅周辺でゼミ学生と一緒に、主に盛岡駅を利用する一般の方々にパンフレットを配布する活動を通して、日詰商店街のPR活動を進めた。



・パンフレット配布活動後、同日行われた「日詰小学校第3回学校運営協議会」において、児童が学校運営協議会委員に、活動の様子を報告した。



○2月10日（火）6学年卒業研究発表 ※ 授業参観日

【三好純矢県立大学講師・学級担任・児童・保護者・CSコーディネーター 等】

・1年間学んだ総合的な学習をもとに「未来デザイン発表会」が、授業参観日に併せて行われた。児童は学んだ成果から「自分の未来の展望」をパワーポイントのプレゼン資料を活用し、全員が発表することができた。発表会の後、三好アドバイザーから発表の様子について講評をいただくことで、児童発表の価値づけを行った。

・2月18日には、代表の児童10名程度が、学校運営協議会委員や訪問先で関わっていただいた日詰商店街の講師の方をはじめとする地域の方々に発表会を行う予定である。



4 成果と課題（次年度に向けて）

（1）成果

・昨年度から、県立大学三好講師がアドバイザーとして日詰小学校6学年地域学習「花の虹タイム」に関わっていただいている。連続して関わっていただいたことで、県立大学生の活躍（商店選択・リサーチ・交渉・児童へのプレゼン・当日の引率等の学習サポート・パンフレット配布活動サポート、卒業発表会参加による支援等）が顕著であり、実り多い小学生での「ゆうごうセミナー」が実施できた。とくにも今年度、11月26日に盛岡駅でのパンフレット配布活動をゼミ学生に支援いただいたことは、児童の「学んだ成果を発信する活動」を不安感なく実施することができ、パンフレットをすべて配布できたことは児童の自信が高まり、学習意欲の向上につなげることができた。

・児童が適切な支援により充実した「地域学習」ができたことは、児童の学びにつながるとともに、児童を受け入れる日詰商店街のつながりがさらに高まっていることが実感できた。商店街の賑わいにもつながることが期待できる

（2）展望

- ・適切な「地域学習」を行うことで、児童の地域への愛着をもつ心をさらに高めたい
- ・次年度以降も継続できるように、今年度中に見通しを持ち、計画的に取り組んでいきたい